

## [京都サマープログラム 2017]

[ジラッシュャー パンタナー  
チューラーロンコーン大学文学部]  
July 31 - August 10, 2017

日本語を勉強するためのさまざまな目安を知ることができて収穫でした。日本人の友達ができ、日本語を使う機会が増えました。また、京都大学で講義を受講してから、日本では日本の文化や歴史などについてより深く勉強できることがわかりました。そのためにも、つまり、日本人の先生や友達から日本語を通じていろいろなことについて学ぶためにも、日本語自体を学習すべきだと感じました。

京都大学の学生とのやり取りから、京都の学生生活について知りました。例えば、通学方法、出費、勉強時間・内容、方言（言語生活）などです。この大学で勉強したくなり、日本でしっかり勉強できるように、もっと真剣に日本語と英語を勉強しなければならないと思っています。

そして、二週間のあいだ京都大学の学生として勉強してみて、自分は京都大学での学生生活についてどんな思いを持っているのかということがわかりました。例えば、日本で暮らすことができるか、日本文化に適応することができるか、何が目標になるのかということがわかりました。さらに、このプログラムのおかげで、次回日本に来たらどんなことをすればいいのか、またどんなことをしたらよくないのかということがわかってきたので、スムーズに生活に慣れる自信ができました。

このプログラムが私に与えた影響を一言でいうと、インスピレーションです。さらに勉強して、日本の多方面について勉強したいという希望を強く持つようになりました。

京都大学で経験したことは多く、良い思い出になりました。まず、東南アジアの友達ができ文化交流ができたことは本当にいい経験でした。日本だけではなく、東南アジアの様々なことを聞くことができ、周りの国に対する知識と理解が増しました。そして、チューラーロンコーン大学の学生生活との違いの一つとして、毎日歌の合唱団や野球クラブ活動が見られました。今回、最も貴重な経験だったのは、日本語の方言を勉強したことです。タイでは日本の方言についての書籍があまりなく、方言について学ぶ機会に乏しかったのですが、京都の地元の人から方言について直接教えてもらうことができました。機会があれば、さらに詳しく方言について研究したいと思います。

講義も本当に勉強になりました。特に、**AAA Tech (Asian Advanced Agricultural Technologies)** の講義が面白いと感じました。なぜなら、過程はできるだけ詳しくするという、日本人ならではの事例を知ったからです。また、日本人の性格は「あきらめないでいつも新しいことに挑戦する」ということや、生産技術によって様々な水準が上昇することがわかりました。また、この授業で得た教訓として、天然資源を無駄遣いしないように気を付けようと思います。

ほかの講義のテーマも非常に面白いと思いました。出席してみることで、自分がどんなことに興味をもっているのか客観的に考えることができます。私は以前から文学と教育に関するテーマに興味があり、京都大学の先生の講義を聞いて自分の興味がいつそう具体的になりました。

最後に、このプログラムが終わってから私をもっと頑張らなければならないと思っています。京都サマープログラムに参加できたおかげで、自分の弱点がわかり、それをどうやって克服することができるのかということが明らかになりました。まず、日本語をさらに勉強して日本語能力を高め、4年生になってから京都大学に留学したいと考えています。なぜ京都大学かというと、文学部の学生から京都大学の教育内容が自分の勉強法と合うと思ったからです。また、自分は文学部の学生であり、興味のある分野が文学なので、将来、京都大学でこの分野に関する自分の知識を広げるつもりでいます。私は大学の先生になりたいと考えており、チューラーロンコーン大学を卒業したら日本の大学院に進学しようと思っています。